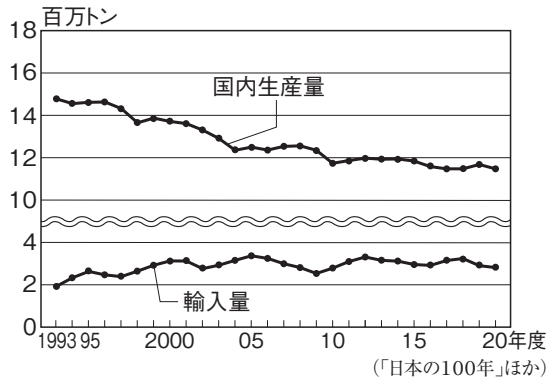
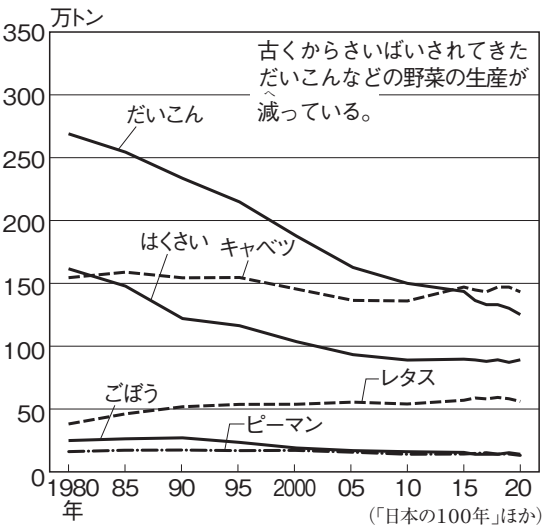
第 4 回　日本の畑作

1　野菜の生産　左のグラフを見て，次の問いに答えなさい。



▲野菜の国内生産量と輸入量の変化



▲おもな野菜の生産量の変化

(1)　1993年度と2020年度を比べると，野菜の生産量は，どのように変化していますか。　〔　　〕

(2)　野菜の輸入量は，全体的にどのように変化していますか。　〔　　〕

(3)　日本の野菜の自給率は，どのように変化しているといえますか。　〔　　〕

(4)　野菜の生産量が多く，市場への入荷量が増えると，ふつうねだんはどう変化しますか。〔　　〕

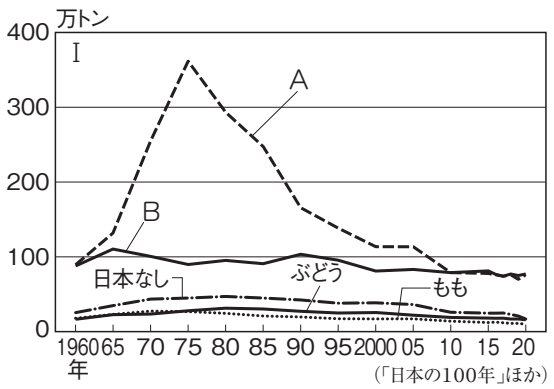
(5)　大都市の周辺では，新せんなまま出荷できるため，野菜づくりがさかんです。このような農業を何農業といいますか。　〔　　農業〕

(6)　ビニールハウスや温室などの施設を使って野菜・草花などをさいばいする農業を何といいますか。　〔　　〕

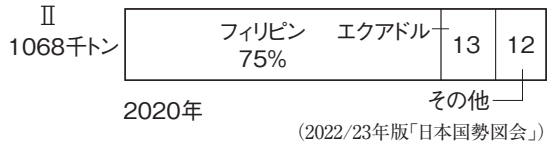
(7)　八ケ岳山ろくや浅間山山ろくでは，夏のすずしい気候に適したはくさいやレタスなどのさいばいがさかんです。このような野菜は，何野菜とよばれていますか。　〔　　野菜〕

(8)　冷ぞう・冷とう設備を備えた(　　)とよばれる輸送のしくみが発達しています。(　　)にあてはまることばを答えなさい。　〔　　〕

2　くだものの生産　左のグラフを見て，次の問いに答えなさい。



▲おもなくだものの生産量の変化



▲あるくだものの輸入相手先

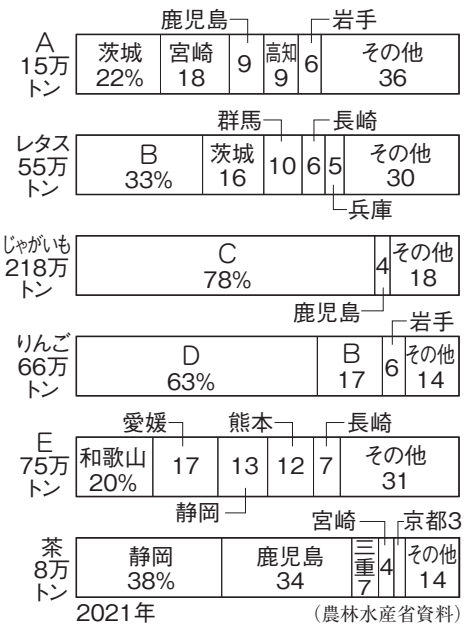
(1)　グラフⅠ中のAは，暖かい地域で生産の多いくだものの1つです。Aは何ですか。　〔　　〕

(2)　グラフⅠ中のAの生産量が，1975年以降減ってきたのは，消費者の好みが多様化したことや，外国から(　　)されるくだものの量が増えたことに深く関係しています。(　　)にあてはまることばを答えなさい。　〔　　〕

(3)　グラフⅠ中のBは，すずしい地域でおもに生産されているくだものです。Bは何ですか。　〔　　〕

(4)　グラフⅡは，あるくだものの日本の代表的な輸入相手国を示しています。このくだものは何ですか。　〔　　〕

3 いろいろな畑作物の生産割合　左のグラフを見て，次の問いに答えなさい。



▲畑作物の都道府県別生産割合

(1) Aのグラフは，ビニールハウスや温室でのさいばいがさかんな野菜の都道府県別生産割合を示しています。この野菜は何ですか。〔　　〕

(2) レタスは，グラフ中のBの高原地帯が主産地です。Bは何県ですか。〔　　県〕

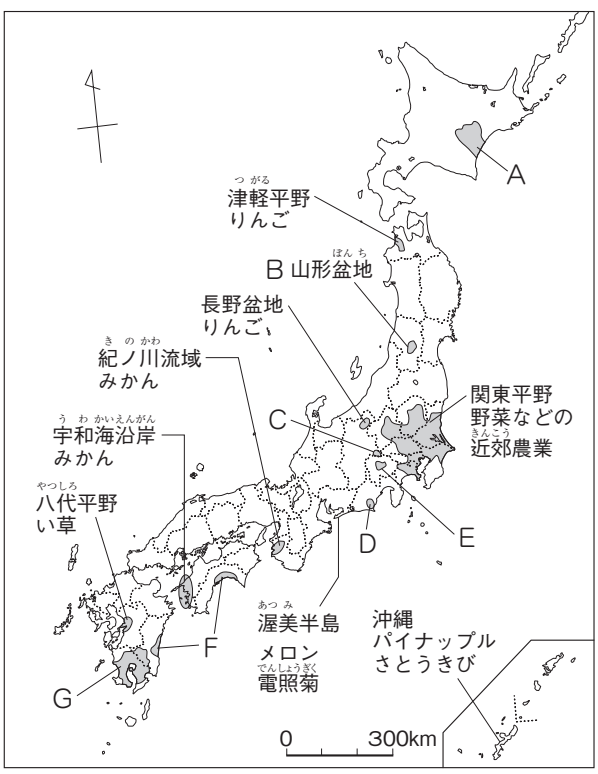
(3) じゃがいものグラフ中のCでは，小麦やあずきの生産もさかんです。Cの都道府県名を答えなさい。〔　　〕

(4) りんごのグラフ中のDは，本州の最北端に位置しています。Dの県名を答えなさい。〔　　県〕

(5) Eのグラフは，関東地方よりも南に位置する都道府県でおもにさいばいされているくだものの都道府県別生産割合を示しています。このくだものは何ですか。〔　　〕

(6) グラフの茶のほか，い草などは，工業製品の原料となる作物です。このような作物を何といいますか。〔　　〕

4 畑作のさかんな地域　左の地図を見て，次の問いに答えなさい。



(1) 地図中のAは，大規模な畑作地域として知られている平野です。Aの平野の名前を答えなさい。〔　　〕

(2) 地図中のAなど北海道の畑作地域では，さとうの原料となる作物がさいばいされています。この作物は何ですか。〔　　〕

(3) 地図中のBの山形盆地ではくだもののさいばいがさかんで，特に(　　)や西洋なしの生産は全国で最も多くなっています。(　　)にあてはまるくだものの名前を答えなさい。〔　　〕

(4) 地図中のCは，夏のすずしい気候を利用した高原野菜のさいばいがさかんな高原です。Cの高原は，何とよばれていますか。〔　　〕

(5) 地図中のDでは，南向きの台地で茶のさいばいがさかんです。Dの台地を何といいますか。〔　　〕

(6) 地図中のEの盆地では，水はけのよい土地を利用したぶどうやもものさいばいがさかんで，この盆地のある県はぶどう・ももの生産量が全国1位になっています。Eの盆地の名前を答えなさい。〔　　〕

(7) 地図中のFの地域では，気候が温暖なことなどから，野菜をほかの地域より早く出荷するさいばい方法である(　　)がさかんです。(　　)にあてはまることばを答えなさい。〔　　〕

(8) 地図中のGには，水もちの悪い火山灰が広がっているため，稲作よりもさつまいもや茶などの畑作や畜産がさかんです。この火山灰は何とよばれていますか。〔　　〕

練習問題

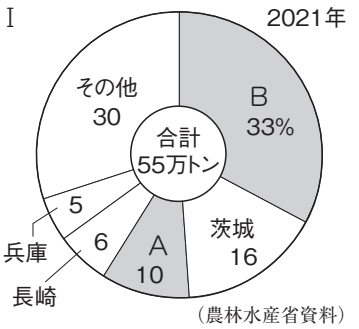
1 日本の畑作物の生産について，右の地図を見て，次の問いに答えなさい。

(1) 地図中の東京・名古屋・大阪などの大都市周辺では，都市向けの野菜づくりを行って，新せんなうちに出荷しています。このような農業を何農業といいますか。

(2) グラフⅠは，地図中のA・Bの県などで，夏でもすずしい高原の気候を利用して生産される野菜の都道府県別生産割合を示しています。グラフⅠ中のA・Bは地図中のA・Bと同じ県です。グラフⅠにあてはまる野菜を次から選び，記号で答えなさい。

ア レタス　**イ** なす
ウ トマト　**エ** ピーマン

Ⅰ



（農林水産省資料）

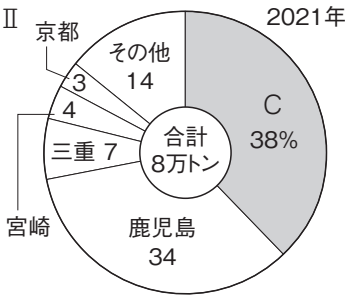
(3) グラフⅡは茶の都道府県別生産割合を示しており，Cは地図中のCと同じ県です。これについて，次の問いに答えなさい。

① Cの県にある，茶のさいばいがさかんな地域を次から選び，記号で答えなさい。

ア 野辺山原　**イ** 渥美半島
ウ 牧ノ原　**エ** 八代平野

② 茶やさとうきびなど，工業製品の原料となる農作物を何といいますか。

Ⅱ



（農林水産省資料）

(4) 地図中のDやEの県では，温暖な気候を生かして，野菜をほかの地域より早く収かくして出荷しています。これについて，次の問いに答えなさい。

① このようなさいばい方法を何といいますか。

② 野菜をほかの地域より早くさいばいして出荷することの利点を，「ねだん」ということばを使って，簡単に答えなさい。

③ DやEの県のように大都市から遠い地域から，大都市へ新せんな野菜がとどくようになった理由の1つに，輸送機関の発達があげられます。冷ぞう・冷とう設備を備えた輸送のしくみを何といいますか。次から選び，記号で答えなさい。

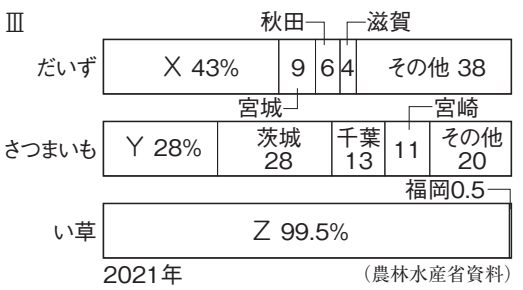
1

(1)	
(2)	
(3)	①
	②
(4)	①
	②
	③

ア　パイロットファーム　　**イ**　メークイン

ウ　コールドチェーン　　**エ**　フェリー

(5)　グラフⅢは，だいず・さつまいも・い草の都道府県別生産割合を示しています。これについて，次の問いに答えなさい。



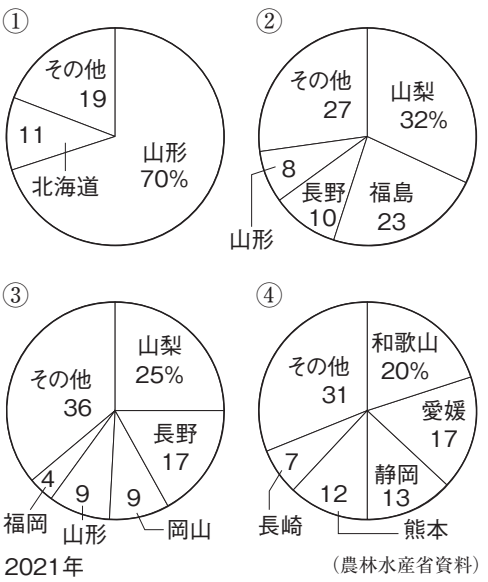
①　グラフⅢ中のX～Zにあてはまる都道府県を地図中の**ア**～**ク**からそれぞれ選び，記号で答えなさい。

②　グラフⅢ中のだいずは，たんぱく質（しつ）が豊富（ほうふ）なことから，「□」とよばれます。□にあてはまることばを答えなさい。

(5)	①	X
		Y
		Z
	②	

2　日本のくだものの生産について，次の問いに答えなさい。

(1)　右の①～④のグラフは，あるくだものの都道府県別生産割合を示しています。①～④にあてはまるくだものを次からそれぞれ選び，記号で答えなさい。



ア　もも　　**イ**　ぶどう

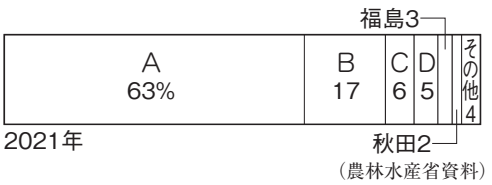
ウ　みかん　　**エ**　かき

オ　日本なし

カ　パイナップル

キ　おうとう（さくらんぼ）

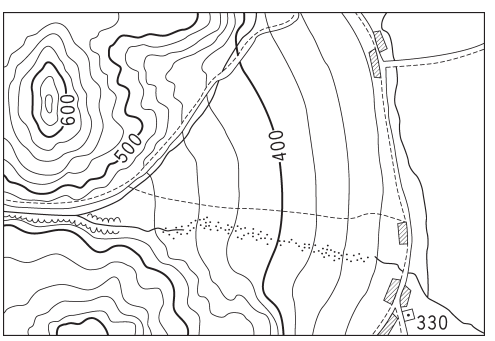
(2)　右の帯グラフは，りんごの都道府県別生産割合を示しています。グラフ中のAにあてはまる県を次から選び，記号で答えなさい。



ア　山形　　**イ**　長野

ウ　青森　　**エ**　岩手

(3)　山梨県の甲府盆地（こうふぼんち）では，くだものの生産がさかんです。この盆地には，右の地形図のような，川が山地から平地に流れ出るところにつくられる地形が見られます。このような地形を何といいますか。



(4)　くだもの畑を表す地図記号を次から選び，記号で答えなさい。

ア　　**イ**　　**ウ**　　**エ**

2		
(1)	①	
	②	
	③	
	④	
(2)		
(3)		
(4)		